

24 本邦においてヘボンが用いた教科書

『衛生・生理学』書について

島田和幸

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科

神経病学講座歯科応用解剖学分野

James Curtis Hepburn はペンシルバニア州ミルトンに一八一五年に生まれ、一八三六年にペンシルバニア大学医学部を卒業し、一八四一年より五年間、アジア諸国で伝道後、一八四六年に帰米、ニューヨークで眼科医として十三年間開業を行った後、一八五九年十月二十八日に来日し、三十三年間を日本で過ごした。一八七六年には横浜の山手で開業、当時の歌舞伎の人気女形であった三代目沢村田之助の脱疽の足を切断手術した。また当時の目薬、精錡水の調合としても有名である。しかし彼の最も著名な業績はヘボン式ローマ字を編み出し、一八六六年には「和英語林集成」を岸田吟香と共に出版した。一八七四年にはヘボン治療所に

横浜第一長老公会（現在の横浜指路協会）を設立し、一八八〇年横浜のヘボン塾を東京に移転し、築地に一致英和学校を設立した。現在の明治学院大学の前身である。一八八九年には初代総理に推薦され、衛生・生理学の講義を担当していたことが記録されている。しかし、衛生・生理学の講義の際に使用した教科書については大滝による報告があるが詳細については明らかにされていない。そこで今回、明治学院歴史資料館に照会してみたところ大滝氏がこれまで報告されていた原典と共に、さらなる一冊の書を教科書として使用していたことが判明した。一冊は大滝氏が既に紹介している書で『Hygienic Physiology, with special reference to the use of Alcoholic Drinks and Narcotics』の原著者は Joel Dorman Steele の A. S. Barnes & Company、一八八四年出版である。もう一冊の書は J. C. Cutter 著の『Comprehensive Anatomy, Physiology, and Hygiene』の出版は J. B. Lippincott Company から出版された J. C. Cutter 著でおそらく一八八四年から一八八八年度出版の書が使用されたと考えられる。今回はこ

の両著書について内容紹介する。

Joel Dorman Steele の書はハードカバーで縦×横は一九〇×一三〇mm、総二七六ページよりなっていて、内容はまず Introduction に始まり I-X の章項目、骨、筋、皮膚、呼吸と発生、循環系、消化と食物、神経系、感覚器系（蝕覚、味覚、臭覚、温度覚、視覚）、そして第 IX 章では総合結論、X 章には病気や毒物、自習勉強のための項目、単語、用語説明、そして最後は索引が記されている。各項目の章の前には “Backboard Analysis” としてその章のまとめが揭示されており、図は総計六七図である。まず解剖学的な説明に始まり、次に生理・機能的な作用が記述され、今日の我々が思っているような衛生学よりも生理学的な記載の内容である。もう一冊の書は、札幌農学校の外国人教師であった Cutter の書で、本書もハードカバーで縦×横は一九五×一三〇mm で総三八四ページよりなり十五章にわけられている。一章は概論、二章は構造、三章は皮膚、四章は筋、五章は血管と循環、第六章呼吸、第七章食物、第八章消化器と消化、第九章リンパ、脾臓、泌尿

器、第十章栄養、第十一章神経、第十二章感覚器、第十三章喉頭と声、第十四章運動器系、第十五章病気や緊急の際の対応などの内容が記載されている。

以上、今回は大滝氏の報告の原典を『白金通信』一九八〇年二月一日第百三十四号であることを調べ、且つ『明治学院百年史資料集（第一集）』昭和五十年三月二十日発行より John Cutter の書もヘボンにより使用されていたことが判明し、ここに両著書の記載内容を報告する。